

# もろ山歴史散歩

206

流鏑馬サミット  
参加団体の紹介④

吉保八幡神社の流鏑馬

(千葉県鴨川市)

各地の流鏑馬は、毛呂山町のように輪番制で担当地区そのものが変わ



騎射のようす

るものや第1回で紹介した大町市のように担当地区は変わらず、射手が毎年変わるものなど様々です。千葉県鴨川市には、射手を決まった家で担当する流鏑馬があります。今回は鴨川市吉保八幡神社の流鏑馬を紹介しします。

## 自然と歴史文化を活かした 観光都市・鴨川市

房総半島の南東部に位置する千葉県鴨川市は、人口3万6千人、面積は191平方キロメートル、太平洋に面し、温暖な気候と美しい海岸線など恵まれた自然環境にあります。

平成17年に旧鴨川市と天津小湊町が合併し、現在の鴨川市が誕生しました。鴨川市といえば水族館を思い起こしますが、海に因んだ観光資源のほか文化財も豊富にあり、観光都市として発展しています。内浦湾では古くからタイは禁漁とされ手厚く保護されてきました。

「鯛の浦タイ生息地」は世界有数のタイ群生地として知られ、国の特別天然記念物に指定されています。

海のイメージが強い鴨川市ですが、加茂川沿いに開けた長狭平野はブランド米「長狭米」を産出する米作地帯でもあります。嶺岡、清澄山系を控え、都心から最も近い棚田といわれる大山千枚田は日本の棚田百選に選定されています。江戸時代には、嶺岡牧に代表される幕府直轄の牧が置かれ、インド産の白牛を放牧し酪(バター)の製造が行われていたことから酪農発祥の地ともいわれています。

## 千葉県を代表する古式流鏑馬

吉保八幡神社は、長狭街道と丸街道の交差する交通の要衝に位置します。昭和30年代までは市内3つの神社で流鏑馬が執行されましたが、現在は吉保八幡神社の流鏑馬だけが唯一行われており、千葉県の無形民俗文化財に指定されています。

吉保八幡神社の流鏑馬は、射手を担当する家が代々世襲により決められており、禰宜殿と呼ばれます。禰宜殿は1週間ほど前から厳格な精進潔斎を行い祭りに臨みます。

祭当日の午後、禰宜迎えと称し、神社へ向かう祭馬を山車や屋台が鉦や太鼓を打ち鳴らし出迎えます。禰宜殿の後を山車や宮立と呼ばれる太

鼓が練り歩きますが、お練りも華やかで大変見応えがあります。

## 馬場から遠いと豊凶占い

馬場に立てられる板は一辺1mほどの厚いものです。的板を竹に挟み、しっかりと固定した後、馬場から15mほど離れた田の中に3つ立てられます。一の的は早稲、二の的は中稲、三の的は晩稲を意味し、騎射は3回、計9本の矢が目的目掛けて放たれ、命中の具合で作柄の豊凶、適種を占います。馬場から遠的に矢を当てるのは容易ではありませんが、命中した時の流鏑馬を見守る観衆の歓声は一層大きく上がります。

古くから牧が設置され、人びとにとって馬が身近な存在であったという歴史風土、県内きつての米どころという土地柄と民間信仰色の強い流鏑馬への期待感が吉保八幡神社の流鏑馬から感じられます。



千葉県鴨川市